

カメルーンにおける治安・平和部隊 国際学校(EIFORCES)の訓練と 体制の強化



日本補正予算：2020：2020年3月～2021年3月

予算：23万米ドル

パートナー：防衛省(MINDEF)、経済・計画・地域開発省(MINEPAT)、
日本大使館

目的

このプロジェクトの目的は、民間人や警察官、軍人を対象に日本人の国際関係専門家が実用的な訓練を施し、カメルーン治安・平和部隊国際学校(EIFORCES)が国連認定のPKO訓練のためのセンター・オブ・エクセレンスとして公認されることを目指します。プロジェクトはEIFORCESのAwae・キャンパスに32床の寄宿舎を整備し、同校の訓練生受け入れ態勢を改良し、PKO部隊に対する需要の増大に対応します。

プロジェクトの成果

成果1：中部アフリカの治安部隊要員33人が、日本の国際関係専門家を招き国連派遣前研修必修資料(CPTM)と平和支援活動(PSO)に関する訓練を受け、国連の平和支援活動に向け必要な知識を取得します。

成果2：EIFORCESの訓練生受け入れ体制拡充のため、32床の寄宿舎を建設します。

SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標4、5、11および16に貢献します。

4 QUALITY
EDUCATION



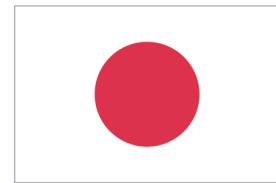
5 GENDER
EQUALITY



11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES



16 PEACE, JUSTICE
AND STRONG
INSTITUTIONS



From
the People of Japan

開発課題

近隣諸国の情勢悪化に伴い、カメルーンはアフリカ中部地域の安定化にむけて重要な役割を担います。他方、近年の国内情勢の悪化により、同国自体の安定性も脅かされています。

北部でのイスラム原理主義勢力ボコ・ハラムによるテロ攻撃は、テロ対策が大きな成果を上げているにもかかわらず、依然として続いており、事態の鎮静化への道筋が見えないままです。

カメルーンはこうした脅威を抑えるため、今後さらに多くの国防・治安要員を導入する必要があります。同時に、東部の国境地帯では、中央アフリカ共和国(CAR)から侵入した武装勢力による攻撃が活発化し、中央アフリカ共和国の治安部隊の訓練に関する支援体制の強化を余儀なくされています。持続的な平和を目指し、戦略的理由と人道的理由の両方から、支援を行う必要があります。日本はその一環として、中央アフリカの保安機構を通じた復旧と再編に向けた正規訓練をEIFORCESがすべて提供できるよう、支援を続けています。